

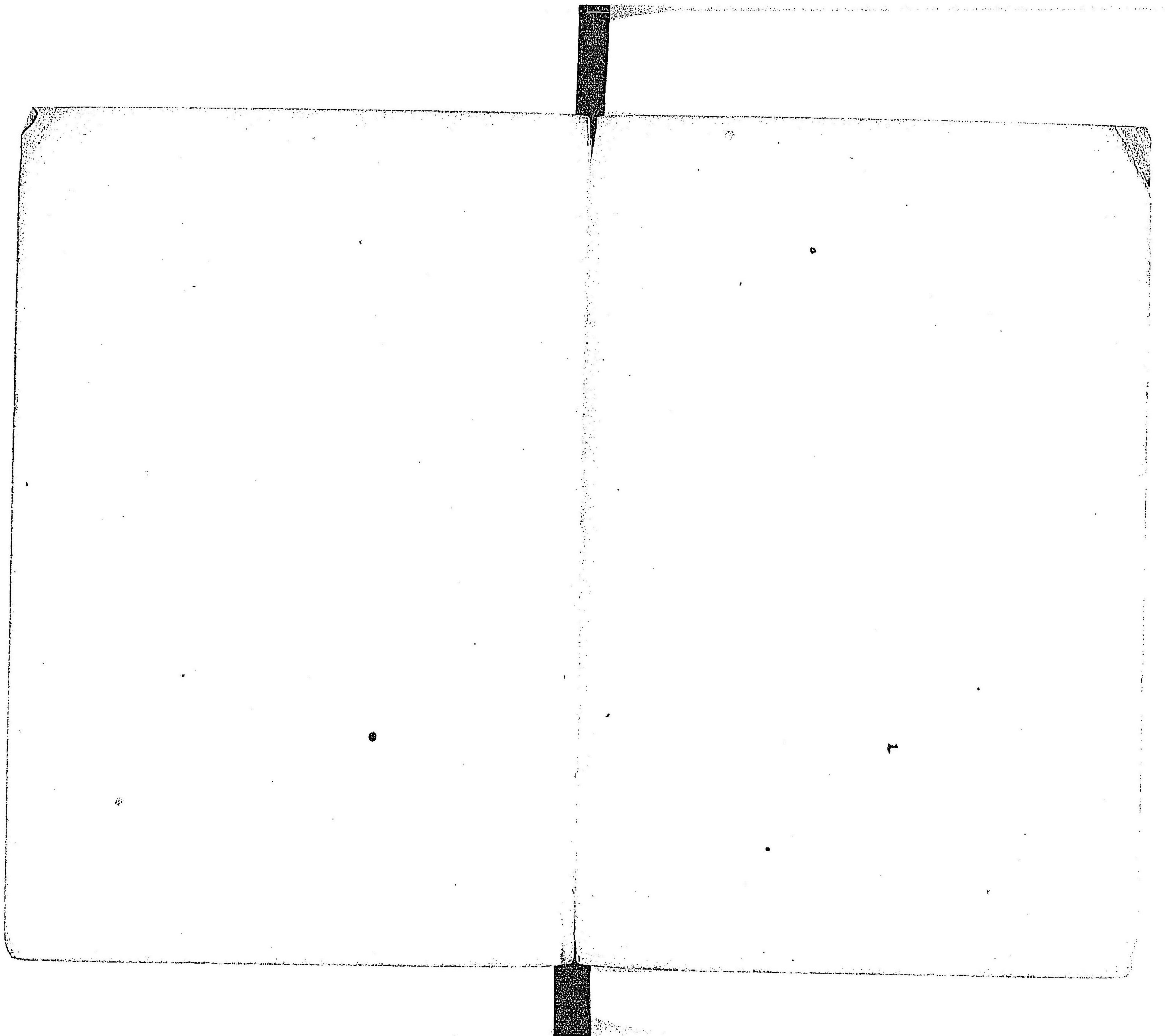
97
4
865

禁電子式複写

安田勳
村上幹當
同輯

參事院裁定錄
第一卷

明治十六年二月出版



特30
142

安田
村上
幹當
勳
同輯

參事院裁定錄
第壹卷

明治十六年二月出版

昭和十六年二月出版

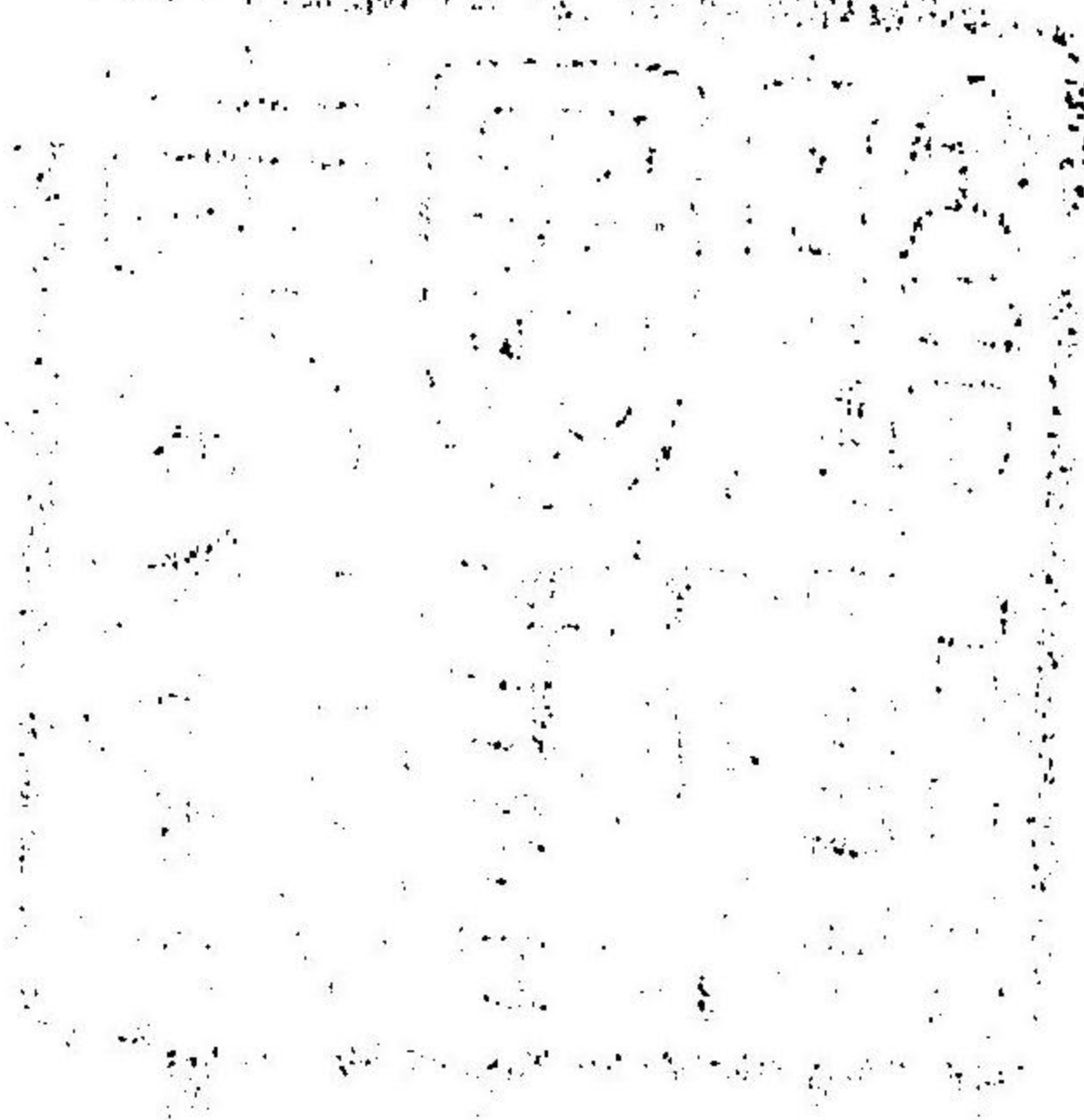
民事訴訟法
解釋

田中
同編

C8
2391
04

例言

本誌ハ府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異
ニシ又ハ權限ヲ爭ヒ府縣會規則第九條第三項ニヨリ政府
ノ裁定ヲ請ヒタル裁定書ヲ蒐錄セシモノニシテ漸次二卷
三卷ヲモ發兌センコトヲ期ス



參事院裁定錄第一卷目錄



- 第五 新瀨縣地方稅土木費中用惡水樋堰手當ノ件
- 第六 和歌山縣土木費支出ノ件
- 第七 秋田縣地方稅出納決算ノ件
- 第八 福島縣福島病院費ノ件
- 第九 廣島縣地方郵便費ノ件
- 第十 廣島縣廣島病院三次分局拂下ノ件

第十一 廣島縣地方稅土木費中測量費支辨方ノ件
第十二 滋賀縣會議費補充ノ件

二

參事院裁定錄第一卷

裁定書

和歌山縣令 神山郡廉

和歌山縣會議長濱口儀兵衛

縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方稅經費中郡區長増給ノ儀ニ
付法律ノ見解ヲ異ニシ府縣會議規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰
クノ要領左ノ如シ

縣會ノ申陳

縣會ハ府縣會議規則第一條ニ依リ地方稅ヲ以テ支辨スルニ
經費ノ豫算ヲ議定スルノ權ヲ有シ縣令ハ同規則第五條ニ
依リ其決議ヲ認可施行スルニ止リ之ヲ變更スルノ權ナシ
故ニ郡區長ノ給料ノ如キ一人毎ニ其給額ヲ定メタル議案

ニ依リ縣會ニ於テ之ヲ議決シ縣令ニ於テ之ヲ認可シタル
以上ハ恣ニ其額ヲ變更スルヲ得ス然ルニ縣令ニ於テ豫期
スヘカヲサレモノヲ餘屬アリト臆想シ之ヲ流用シテ郡區
長ニ増給シタルハ法律ニ背キ縣會ノ權利ヲ損害スルモノ
ト認メリ

又府縣會規則第三十七條ニ當置委員ハ府縣會ノ議定ニ依
リ事業ヲ執行スルノ方法順序ニ付毎ニ府知事縣令ノ諮問
ヲ受ケ其意見ヲ述フトアルニヨリ本件ノ如キモ必ス當置
委員ニ諮問スヘキモノトス然ルニ縣令ニ於テ之ヲ諮問セ
ザリシハ縣會ノ權利ヲ損害スルモノト認メリ

縣令ノ答辨

地方稅規則第三條中以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

トアルハ右規則ニ列記シタル費目ノ流用ヲ禁スルノ主旨
ナルニヨリ縣令ニ於テ一費目ヲ細別シテ數小費目ヲ立テ
議決ニ附シタレハトテ之ヲ流用スルモ固ヨリ法ノ禁ス
ル所ニアラス故ニ府縣官職制ニ郡區長ノ給料ハ府知事縣
令之ヲ定ムトアルニヨリ之ヲ專行セリ

又事業執行ノ方法順序ニ關スル事ナレハ府縣會規則第三
拾七條ニ依リ豫シメ當置委員ニ諮問スヘキナレモ本件ノ
如キハ方法順序アルニアラス故ニ適宜執行セリ
本件ニ裁定スルコトハ左ノ四項ヲ審理スルヲ要ス

第一 地方稅規則第三條中以上費目互ニ流用スルコト

ヲ許サストノ明文ハ其一費目内ノ流用ヨモ許セ
ルノ意ナリヤ

第二

縣會ニ於テ郡區長一人毎ニ其給料ヲ定メタルカ
如キ議案ニ對シ議定ヲ爲シ縣令ニ於テ之ヲ認可
シタル以上ハ縣令ハ其給額ヲ動カスコトヲ得サ
ルモノナリヤ

四

第三

流用シ得ヘキ金額アルヤ否ヤヲ確認セスレテ流
用ヲ爲スモ妨ケナキヤ

第四

郡區長増給ノ如キハ府縣會規則第三拾七條ニ依
リ常置委員ニ諮問スヘキモノナリヤ

第一條

地方稅規則第三條中以上費目互ニ流用スルコトヲ許サズ
トノ明文ニ就キ其意義ヲ推究スルニハ從來ノ慣行ヲ案ス
ルヲ必要ナリトス從前府縣稅中別ニ費目ノ設ケナク府知

事縣令ノ適宜支辨ニ任セ曾テ流用ヲ禁シタルコトナレ明

治十一年地方稅規則ヲ設ケ其費目ヲ制定スルモ尙其流用
ヲ禁セス明治十三年ニ至リ拾六號布告ヲ以テ始テ其費目
ノ流用ヲ禁スルノ制限ヲ設ケタリ其制限法タルヤ法律ノ
指定セル費目則チ地方稅規則第三條ニ列記セル費目ノ流
用ノミヲ禁シタルモノニシテ縣令カ府縣會規則第三條ニ
依リ議案ヲ發スルノ權ヲ以テ適宜ニ一費目ヲ細別シテ設
ケタル小費目ノ流用マテモ制限セサルコトハ以上費目ト
アルノ明文ヲ以テ判然タリ故ニ縣令ハ從來ノ慣行ニ從ヒ
小費目ノ流用ヲ爲シ得ヘキモノトス

第二條

縣會ノ議定ハ縣令ニ於テ擅ニ變更スルヲ得スト雖而前條

ニ辨明シタル如ク一費目ヲ細別シタル小費目ハ之ヲ流用
シ得ヘキモノナルニ付一費目内ニ於テ彼此流用シ府縣官
職制ニ依リ郡區長ニ増給シ會テ認可シタル議定ノ給額ヲ
動スモ妨ケナキモノトス

第三條

第三ノ要點ニ至テハ前條々ニ辨明シタル如ク縣令カ其一
費目ノ流用ヲ爲シ得ルモノナル上ハ流用ヲ要スヘキ事項
ヲ執行スルモ尙ホ其一費目總額ニ増嵩ヲ生スルコトナキ
トキハ到底法律ニ悖戻シタルモノト云フヲ得ス然ルニ縣
會未タ其結果ヲ見サルニ先ツテ法律上妨ケアルモノトナ
スハ速了ノ見解ナリトス

第四條

郡區長増給ノ事ハ常置委員ニ諮問スヘキモノナリヤ否ヲ
制定スルハ府縣會規則第三十七條ニ謂ユル方法順序ニ關
スルト否トニ在故ニ縣令ニ於テ現ニ流用シ得ヘキ餘贏ア
ルヲ認メ増給ノ事ヲ執行スルトキハ別ニ方法順序ニ關セ
サルヲ以テ常置委員ニ諮問ヲ要セサルモノトス若シ其流
用ノタメ他ノ事業ニ伸縮ヲ生スヘキモノアルトキハ則チ
方法順序ニ關スルヲ以テ之ヲ常置委員ニ諮問スヘキモノ
トス然ルニ今雙方ヨリ提供セシ書類ヲ閱スルニ其事業ノ
伸縮ニ關スルト否トヲ確認スベキモノナシ

裁定

和歌山縣令カ地方稅規則第三條一費目中ノ小費目ヲ流用
スルヲ得ルノ見解ハ法律ニ悖戻スルコトナシ但常置委員

ニ諮問スヘキト否トハ未タ事實ノ確認スヘキモノニアラサルヲ以テ裁定スヘキノ限ニ在ラス

○ 裁定書

福岡縣令 渡邊 清

福岡縣會議長 中村 耕介

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ郡役所合併郡區吏増給ノ箇ニ付法律ノ見解ヲ異ニシテ府縣會議規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ

縣會ノ申陳

府縣會議規則第一條ニ府縣會ハ地方稅ヲ以支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ストアリテ斷然議定ノ權ヲ

縣會ニ與ヘラレシハ該則ノ大綱ナリ則チ縣會ハ其地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算ヲ議スルニ當リ之ニ密着シタル事業方法ヲモ議決シ縣令ハ同規則第五條ニ依リ之ヲ認可シタル以上ハ擅ニ變更スヘカラズ然ルニ若シ府縣會ノ議定スル所ノモノハ只大費目ナリ其細目並ニ事業ニ及ハスシテ一費目内ノ事項ハ意想外ニ生シタル餘贏金アラサルモ甲項ノ費額ヲ流用シテ乙項ノ不足ヲ補ヒ爲メニ議決ヲ變更スルヲ得ルモノトスルトキハ府縣會議規則ノ大綱モ殆ント其精神ノ在ル所ヲ知ラサルニ至ラン故ニ既ニ議定シ認可シタル郡役所ノ數及ヒ郡區吏給料ノ如キハ更ニ縣會ノ議決ヲ經ズシテ之ヲ變更スルコトヲ得サルモノト認メリ

以上縣會具狀書ニ載スル所ナリ又其總代ノ口陳ニヨリ具狀書ノ餘意ヲ補フ左ノ如シ
 抑モ流用ハ事業ヲ廢シテ之ヲ爲スヘキモノニ非ス事業ヲ執行シ意想外ニ餘贏ヲ生シタルトキハ其餘贏ヲ以テ他ノ費額ノ不足ヲ補フヲ得ヘキモノニシテ本件ノ如ク縣會議定ノ大體ヲ變更シ數郡役所ヲ廢シ其費額ヲ以テ他ノ郡區吏ノ増給ニ充テタルハ全ク事業ノ興廢ニ屬スルモノニシテ之ヲ流用ト爲スヲ得ス

縣令ノ答辨

縣會ハ府縣會議規則第一條ニ依リ經費ノ豫算ヲ議定スルニ止リ全規則第一條ノ未文及ヒ第十一條等ノコトク縣會ニ於テ議定スヘキ權限ヲ定メタルモノヲ除クノ外凡ソ事業

方法ハ縣令ノ職權内ニ屬シ縣會ニ於テ之ヲ議定スルノ權ナシ故ニ郡役所ヲ合併シ郡區吏ノ給額ヲ増加スルカ如キ其議決ヲ變更スルモノ一費目ノ總額ヲ超過スルニ非レハ更ニ縣會ノ議決ヲ經ルニ及ハサルモノト認メリ
 本件ヲ裁定スルニハ左ノ三項ヲ審理スルヲ要ス

第一 縣會ニ於テ議定シ縣令ニ於テ認可シタル以上ハ其一費目内ノ小費目ト雖トモ之ヲ變更シ得ヘカラサルモノナリヤ

第二 縣會ノ議權ハ費額ヲ議定スルニ止ラス其事業ニ及フヘキモノナリヤ

第三 郡役所ノ合併ハ事業ノ興廢ニ關スルモノナリヤ
 第一條

府縣會規則第一條府縣會ハ地方税ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ストアルノ明文ニ依リ縣會ハ法律ニ指定セル大費目ト縣令カ各地ノ情況ニ應シテ議案中ニ設ケタル小費目ヲ論セス總テ地方税ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算ヲ議定スルノ權ヲ有セリ然レモ地方税規則第三條ニ地方稅費目ヲ臚列シ以上費目互ニ流用スルコトヲ許サストノ明文アルニ依テ之ヲ論スルトキハ該明文ニ指定セル大費目ニ就テ流用ヲ禁シタルノミニシテ其小費目ニ至テハ從來ノ慣行ニ因リ彼此流用ヲ禁セサルコト判然ナルヲ以テ縣會ノ議定中流用シ得ベキ議定額ト流用シ得ヘカラサル議定額トノ二種ニ類別セサルヘカラス而シテ其流用シ得ヘキ議定額ヲ流用スルハ縣令ノ職權内ニ

在ルモノト縣會ニ於テ認容シ以テ之ヲ議定シ縣令モ亦之ヲ流用シ得ベキモノト豫定シテ認可シタル者ト認メザルヲ定ズ故ニ縣令ニ於テ一旦其議定ヲ認可シタルモ施政上ノ便宜ニ依リ郡區役所ノ合併ヲ專行シ其流用シ得ベキ小費額ヲ以テ郡區吏ニ増給シタルハ擅ニ議定ヲ變更シタル者ト爲スベカラス

第二條

府縣會ノ議權ハ地方税ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算ヲ議定スルニ在リト雖ドモ其經費ハ事業ノ經費ナルヲ以テ之ヲ議スルニ當リテハ勢ヒ必ズ事業ニ議及シテ論定セザルヲ得ズ然レトモ其論定ハ經費豫算ノ爲メニスルモノニシテ法律上事業ヲ議定シタルモノト爲スヲ得ズ而シテ縣令

ガ郡役所ヲ合併シ郡區吏ニ増給シタル如キハ一旦縣會ノ
 議定ヲ經タル經費ニ係ル事業ノ伸縮ヲ生ズルモ素ヨリ施
 政上ノ便宜ヲ計リ一費目内ニ於テ流用ヲ爲スモノナルニ
 ヨリ法律上之ヲ禁セザルコトハ前條ニ論シタルカ如シ然
 ハ則チ事業上ヨリ論ズルモ亦其伸縮ハ縣令ノ裁量ニ任ス
 ベシト縣會ニ於テ認容シ以テ之ヲ議定シタルモノト認メ
 ザルヲ得ズ且ツ其流用ハ一費目内意想外ニ生ジタル餘贏
 ヲ以テスルト否トヲ問ハズ法律ニ於テ等シク之ヲ禁ゼザ
 ル者トス故ニ本件ノ如キハ嘗テ縣會ノ議及セル事業ノ伸
 縮ニ關スルモノヲ以テ議權ヲ侵シタルモノト爲ヌヲ得ズ

第三條

縣會ノ議及セル事業ニ就テ釐革ヲ加フルモノ即チ數郡役

所ヲ合併シタルガ如キハ其事業ヲ廢シタルモノト爲スヲ
 得ズ何ントナレハ郡役所ノ數ヲ減ズルモ其事業ハ依然存
 在スレバナリ既ニ其事業存在ス隨テ其事業ヲ實施スルノ
 用途ニ充ツベキ費額ヲ存セザルベカラス故ニ施政上ノ便
 宜ニ依リ數郡役所ヲ合シ其費額ヲ以テ其事務ヲ施行スル
 郡役所ノ費用ニ充ルモノヲ以テ事業ノ興廢ト認ムルヲ得
 ス

裁定

縣令ニ於テ郡役所ヲ合併シ郡區吏ノ給料ヲ増加シタルハ
 法律ニ牴觸セザルモノトス

明治十四年七月廿七日

審理委員長參議

山田 顯義

審理委員 議官

神田 孝平

全 議官

渡邊 驥

全 大審院判事

尾崎 忠治

全 大政官大書記官 股野 琢

大審院判事 堤 正己

全 太政官少書記官 伊東己代治

全 太政官少書記官 伊東己代治

裁定書

岩手縣令 島 維精

岩手縣會議長 上田 農夫

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ縣令ヨリ郡長ヘ特ニ委任スル
條件ニ係ル費用支出方ノ儀ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ府縣

會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ

縣會ノ中陳

縣令ヨリ郡長ニ特ニ委任シタル條件ハ本ト縣令ノ管掌ニ
屬スル者ナルヲ以テ其費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スベキ者
ニ非ズト認メタリ以上縣會具狀書ニ載スル所ナリ又其總
代ノ口陳ニヨリ具狀書ノ條意ヲ補フ左ノ如シ
若シ縣令ヨリ委任スル條件ニ程度無ク其費用ハ渾テ地方
稅ヲ以テ支辨スベキ者トスルハ豫算議定ノ後ニ至リテ
縣令ハ其職權ヲ以テ幾多ノ條件ヲ分任スルヲ得隨テ地
方稅ヲ以テ其費用ヲ支出セザルヲ得ザルニヨリ豫算ノ議
定ハ終ニ無効ニ屬スベク甚シキハ縣治ヲ舉テ委任セラル
、モ亦知ルベカラス果シテ然ラハ地方稅ニ際限ナク民力ノ

堪ナル所ニアラス

縣令ノ答辨

縣令ヨリ郡長へ特ニ委任條件ハ本ト縣令ノ管掌ニ屬スルモノナリト雖而之ヲ分任スルハ縣令ニ付與セラレタル職權ニアルモノナリ則府縣官職制ニ郡長ハ法律命令又ハ規則ニ依テ委任サル、條件及府知事縣令ヨリ特ニ分任ヲ受クル條件ニ付便宜所分云々トアリテ法律命令規則ニ依テ委任セラル、モ知事令ヨリ特ニ委任ヲ受クルモ其委任セラレタル條件ハ均シ郡長ノ職務ニシテ毫モ差異アルコトナシ故ニ其費用ハ地方稅規則第三條第七項ニ記載スル郡區吏員給料旅費及廳中諸費ノ中ニ包含スルヲノニシテ縣令ヨリ特ニ委任シタル條件ニ限り其費用ヲ國庫ヨリ支

出スベキノ理由ナキモノト認メタリ

本件ヲ裁定スルニハ左ノ三項ヲ審理スルヲ要ス

- 第一 縣令ヨリ郡長ノ特任ノ條件ニ程度ナク縣治ヲ舉テ之レヲ委任スルモ妨クナキモノナリヤ
- 第二 縣令ヨリ郡長ノ特任ノ條件ハ郡長固有ノ職務條件ト殊別スヘキモノナリヤ
- 第三 縣令ヨリ郡長へ特任ノ條件ニ係ル費用ハ渾テ地方稅ヲ以テ支辨スヘカラサルモノナリヤ

第一條

縣令ヨリ郡長へ特任ノ條件ハ法律規則ニ於テ其制限ヲ定メタルトナク縣令ノ專行シ得ヘキ權内ノ餘ルハ地方施政上ノ便宜ニヨリ之レヲ分任スルト否トハ其裁量ニ任セタ

リト雖而上司ニ稟請シテ後ニ處分スヘキ條件ニ至テハ縣令ニ於テハ其分任ヲ專行スルコトヲ得サルモノトス故ニ委任シ得ヘキ特任ノ條件ニ程度ナキモ縣令ニ於テ恣ニ委任シ得ヘキモノニアラズ况シヤ縣治ヲ統理セシムルノ制ニ違背シ縣令ニ於テ爲シ得ヘカラザルハ勿論ナリトス

第二條

府縣官職制中郡長職務ノ第四項ニ郡長ハ法律命令又ハ規則ニ依テ委任サル、條件及府知事縣令ヨリ特ニ分任ヲ受クル條件ニ付便宜處分ノ後ニ府知事縣令ニ報告セトアリ又地方ノ事務郡區長ニ於テ處分シテ後知事令ニ報告スルヲ得ルノ條件ヲ列記シタル末項ニ右ノ外府知事縣令ヨリ特ニ委任スル條件ト明記アリ是ニ由テ之ヲ見レハ法律命

令又ハ規則ニ依テ委任セララル、ト縣令ヨリ委任セラレタルトヲ問ハス其條件ハ渾テ郡長ノ職ニシテ其資格ニ於テ殊別ナキモノトス

第三條

前條ニ辨明シタル如ク縣令ヨリ特任ノ條件モ固有ノ職務條件ト其資格ニ於テ殊別ナキモノナレバ其費用ハ渾テ地方稅ヲ以テ支辨セザルベカラズ何トナレハ現今ニ在テハ縣治ニ關スル費用ヲ大別シ縣廳ニ於テ管掌スルモノハ國庫費トナシ郡區廳ニ於テ所辨スルモノハ地方稅トナスノ組織ナレバナリ而シテ豫算議定前ニ係ル特任條件ノ費用ハ固ヨリ地方稅規則第三條第七項ノ費額豫算中ニ包含セリト雖モ其特任議定後ニアルモハ則豫算外ニ生ジタル條

件ナルニヨリ全條ニ掲載シタル豫備費ヲ以テ之ヲ支辨ス
 ベキモノトス」又縣會總代ハ豫算議定後ニ至リ縣令ヨリ幾
 多ノ條件ヲ特任スルモ其費用ハ渾テ地方稅ヨリ支辨スベ
 キモノトスルトキハ豫算ノ議定ハ殆ンド無効ニ屬スト陳
 辨スルモ地方稅規則第三條ニ於テ豫算外ニ生ズル事件ノ
 費途ニ充ツベキ爲メ豫備費ノ目ニ掲ゲタルニヨリ縣會ハ
 其費額ヲ認容議定シタルモノナレハ豫算議定ノ後新ニ委
 任シタル條件即チ豫算外ニ生シタルモノハ豫備費ヲ以テ
 支辨スルヲ當然ナリトス故ニ議定後委任スルコトアルモ
 之レヲ以テ豫算ノ議定ハ無効ニ屬スト謂フヲ得ス
 裁定

縣令ガ郡長へ特任ノ條件ニ係ル費用ハ渾テ地方稅ヲ以テ

支辨スベキモノトナシタルハ法律ニ抵觸シタルヲナシ但
 豫算議定前ニ特任シタルモノハ地方稅規則第三條第七項
 ノ費額ヲ以テ支辨シ議定後ニ特任シタルモノハ豫備費ヲ
 以テ支辨スベキ者トス

○ 裁定書

高知縣令 田邊 輝實

高知縣會議長 吉良 順吉

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ議員撰舉ノ儀ニ付法律ノ見解
 ナ異ニシタルト云フヲ以テ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ
 縣會ノ申陳

府縣會規則第十三條第十四條ニ依リ現ニ地租五圓以上ヲ

納ムル者ハ撰舉權ヲ得地租拾圓以上ヲ納ムル者ハ被撰舉
 權ヲ得ヘキモノナルニ縣令カ十三年四月甲第八十九號ヲ
 以テ舊租ヲ廢シ新租ヲ施行スル旨ヲ布達シ全年六月甲第
 百三拾二號ヲ以テ新租概額徵收ノ旨ヲ布達シ全年八月其
 概額ニ據リ畑宅地稅ヲ徵收シ全年十二月又之ヲ以テ田方
 稅ヲ徵收シタル上ハ假令新租正額ヲ以テ撰舉被撰舉人ノ
 資格ヲ定メ得サルモ現ニ徵收スル所ノ新租概額ニ據リ之
 ヲ定ムルヲ當然ナリトス然ルニ縣令カ改租事業ノ實地ニ
 於テ新租ニ據リ資格ヲ定ムベキ運ヒニ至ラストメ舊租ニ
 據リ資格ヲ定ムルノ方法ヲ据ヘ置キタルハ法律ニ牴觸ス
 ルモノトス

縣令ノ答辨

十三年四月甲第八十九號布達ハ新稅法施行允可ノ旨ヲ布
 達シタルモノニシテ十三年ノ收稅ヲ一ニ新稅法ニ據ルヘ
 キ旨ヲ達シタルモノニアラス同年六月中甲第三百三十二號
 布達ハ新租概額ヲ以テ徵收スヘキ旨ヲ布達シタルモ概額
 ナルモノハ一町村別ノ總地價ニ就キ之ヲ算出シ戶長チシ
 テ便宜賦課セシメタルモノナレハ撰舉被撰舉人ノ資格ヲ
 定ムベキ一人別ノ納租額ヲ查理スベキ公正ノ簿冊即チ地
 價收穫取調帳未ダ整理ニ至ラザルニ因リ新租正額若クハ
 概額ニ據リ之ヲ査定シ得サルヲ以テ舊租假納額ニ據リ資
 格ヲ定ムルノ方法ヲ据ヘ置キタルハ法律ニ牴觸シタルモ
 ノニ非ズ

本件ヲ裁定スルニハ左ノ二項ヲ審理スルヲ要ス

第一 本案ハ法律ノ見解ヲ異ニシタルモノナリヤ
 第二 本案ハ審理局ニ於テ裁定スヘキモノナリヤ
 第一條

府縣會規則第十三條并ニ第十四條ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者又ハ十圓以上ヲ納ムル者ヲ以テ撰舉被撰舉人ノ資格ヲ定メタル法律ノ見解ニ就テハ縣令ト縣會トノ間ニ於テ曾テ其異ナルアルヲ見ズ但シ縣令ニ於テハ舊税法ヲ廢シ新税法施行允可ノ旨ヲ布達シ又新租概額ヲ以テ徵收スベキ旨ヲ布達シタルモ公正ノ簿冊即チ地價帳未タ整理セサル間ハ新租正額ハ勿論概額ト雖モ一人別ノ租額ヲ知リ以テ撰舉被撰舉人ノ資格ヲ査定スルノ道ナキニヨリ舊租假納額ニ據リ之ヲ査定スルノ方法ヲ据ヘ置キタリト云

ト縣會ニ於テハ既ニ新税法施行ヲ布達シ又新租概額ヲ布達シタル上ハ假令新税法ニ據リ撰舉被撰舉人ヲ査定スルト得サルモ現納ノ概額ニ據リ之ヲ査定スベキモノト云フニ至テハ是レ全ク行政處分上ニ於テ爲シ得ベキト爲シ得ベカラザルトノ見込ヲ異ニシタルモノニシテ法律ノ見解ヲ異ニシタルモノニアラズ

第二條

府縣會規則第九條ニ府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フベシトアリ審理局ハ右規則ニヨリ縣令縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フモノヲ裁定スルノ所ニシテ其他ノ事件ヲ裁定

ズルヲ得サルモノトス然ルニ本案ハ法律ノ見解ヲ異ニシ
タルニアラサルヲ以テ之ヲ裁定スルヲ得サルモノトス

裁定

右ノ理由ニ因リ本案ハ本局裁定ノ限ニアラス

明治十四年九月七日

- 審理委員長參議 寺島宗則
- 審理委員 大審院判事 玉乃世履
- 同 大審院判事 津田眞道
- 同 大審院判事 楠本正隆
- 同 大審院判事 西岡逾明
- 同 大審院判事 股野琢
- 同 大審院判事 名村泰藏
- 同 大審院判事 太政官大書記官
- 同 大審院判事 太政官權大書記官

同 太政官權少書記官 落合濟三

裁定書

新潟縣令 永山盛輝

新潟縣會議長 山口權三郎

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方稅土木費中用惡水樋堰手
當ノ一項ヲ掲ゲタル儀ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ府縣會規
則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ

縣會ノ具狀

第一 地方稅規則第三條第二項土木費ニ河港道路云々ト
アリテ用惡水樋堰ノ明文ナキヲ以テ用惡水樋堰ハ地方稅
ヨリ支辨スベキ限ニアラズト認メタリ○第二 用惡水樋

堰手當ハ政府初メ年期ヲ定メテ下渡ヲ明示シタル一種特別ノ處分ニ出タル者ナレハ十三年第四十八號布告ヲ以テ之ヲ廢止スルノ理由ナシ果シテ之ヲ廢止シタリトスルモ關係町村ニ對シ給與ヲ廢止シタルニ止リテ殘年期中ヲ之チ地方税ニ相續セシムルノ理由ナシト認メタリ○第三 縣令代理人カ内務卿ノ指令ニ依リ議案ヲ發シタリト云フモ内務卿ノ指令ハ本件ニ關シテ効力ナキ者ト認メタリ右ノ理由アルヲ以テ縣令ガ地方税土木費中用惡水樋堰手當ヲ掲グルモノハ法律ニ違背シタルノ議案ナリト具狀セリ

縣令ノ答辨

第一 地方税規則第三條第二項中區町村ニ屬スル全上ノ補助費ノ明文アリ其補助費中ニハ固ヨリ用惡水樋堰手當

ヲ包含セルヲ以テ地方税支辨ノ區域内ニアリト認メリ○
 第二 用惡水樋堰手當ノ起原タル其町村ノ負擔ニ堪ヘサルモノヲ補助シタルニ外ナラズ十三年第四十八號布告ニ依リテ官費下渡ヲ廢止シ尋テ十四年第五號布告アリシ上ハ地方税ヲ以テ其町村ノ負擔ニ堪ヘザル者ヲ補助スルハ當然ノ事ニシテ之ヲ以テ特種ノ官給ナリトシ地方税支辨ノ限外ナリトスルノ理由ナキヲ認メリ○第三 用惡水樋堰手當十四年度ヨリ廢止ノ事ニ付キ再度内務卿へ伺出タル趣意并其指令ノ要領ヲ縣會ニ向テ陳辨セシハ見解ヲ誤ラサルヲ証明スルニ於テ固ヨリ其効力アルモノト認メリ右ノ理由アルヲ以テ地方税土木費中用惡水樋堰手當ヲ掲ゲタルハ法律ノ變更ヨリ由來セシモノニ之ヲ以テ法律

ニ抵觸セシ議案ト認ムルヲ得スト答辨セリ

本件ヲ審理スルニハ左ノ要點ヲ論究スルヲ要ス

第一 用悪水樋堰手當ハ地方稅支辨ノ限ニ在ラサル乎

第二 豫シメ年期ヲ定メタル補助金ハ十三年第四十八

號布告官費下渡金廢止ノ限ニ在ラサル乎

第三 内務卿指令ノ効力ノ有無ハ本件ニ付何等ノ關係

ヲ有スル乎

第一條

地方稅規則第三條ニハ土木費トアリテ其注ニ河港道路云々トアルハ其大綱ヲ舉ケ細目ヲ包含シタルモノニ從來用悪水樋堰ノ諸費皆ナ土木費ヲ以テ支辨セリ依テ本件用悪水樋堰手當ハ地方稅ヨリ支弁スヘキノ限リニ在ラズト

認ムルコトヲ得ス

第二條

十三年第四十八號布告第三條中ニハ官費下渡金ハ來十四年度ヨリ廢止ストアリテ其廢止スヘキ下渡金ニ付キ有期無期ノ別ヲ掲ゲズ其故ニ本件用悪水樋堰手當ハ十三年第四十八號布告第三條官費下渡金廢止ノ限ニ在ラズト認ムルコトヲ得ズ十三年第四十八號布告ノ趣旨ハ官費下渡金ヲ廢スルニ止リ固ヨリ地方稅ヲ以テ相續セシムルノ義ニアラズ然レモ十四年第五號布告第三條第二項中區町村ニ屬スル同上ノ補助費トアリ故ニ縣令ガ其補助ノ支給ヲ地方稅ニ求ムルノ主意ヲ以テ支出年限ノ目的ヲ立テ本年度經費ノ金額ヲ豫算ノ議案ニ掲ケタルハ法律ニ抵觸スル者

ト認ムルヲ得ス

第三條

内務卿ノ指令ハ十三年第四十八號布告官費下渡金廢止ノ後ハ全ク之ヲ町村ノ負擔ニ任スベキカ若クハ更ニ十四年第五號布告ニ依リ地方稅ヲ以テ補助スベキカ此ノ途ニ就キ將來ノ方向ヲ指令シタルモノニシテ行政上ノ處分ニ出ル者ナルヲ以テ今法律ノ見解ヲ異ニスルノ要點ヲ論究スルニ當テ其効力ノ有無ハ本件ニ關係ヲ有セサルモノトス

裁定

右ノ理由アルヲ以テ新潟縣令ガ地方稅土木費中用惡水樋堰手當金ノ一項ヲ掲ゲタルハ法律ニ牴觸スル所ナク議會ニ於テ法律ニ違背シタル議案ナリト認メ之ヲ却クルヲ得

サルモノトス

明治十四年十一月十日

審理委員長	參事院副議長	田中不二磨
審理委員	參事院議員	福羽美靜
同	同	山口尙芳
同	同	鶴田皓
同	同	井上毅
同	參事院議員補	伊東己代治
同	同	大森鍾一

裁定書

和歌山縣令

神山郡廉

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ土木費支出ノ事件ニ付權限ヲ
爭ヒ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ
縣會ノ具狀

縣令カ那賀郡上三毛村字笑松ニ在ル紀ノ川石塙ヲ除去シ
組杵ヲ新造シ川床ノ地葺ヲナシ堤防ニ龜朶工ヲ施シタル
ハ名草郡宮井下各村人民水田灌漑ノ爲メ石塙ヲ除去セン
コトヲ數回歎願セシニ起因シ其組杵ヲ新造シ龜朶工ヲ施
セシハ石塙ヲ除去セシヨリ生シタルモノナレハ灌漑ノ工
事ニシテ治水ノ工事ニアラス明治十三年木縣丙第三百三
十二號達土工定規第二十七條ニ河若クハ海岸波除ト雖モ
特ニ該町村利便ノ爲ニ新設シ又ハ固形ヲ變換改築スル等

ノ工費ハ其之ヲ企圖スル町村限ノ協議費トナシ地方費ニ
連及セストアリ該工事宮井下各村ノ灌漑利便ニ起因セル
コト明白ナレハ工費支辨ノ該條規ニ準據スヘキハ當然ナ
ルニ地方税ト協議費ト連帶支辨セシハ條規ニ適セサルノ
處分ナリ又縣會ノ決議ニ依レハ十三年度治水費連帶支辨
ノ程限ハ工事總額八分通り地方税ヨリ支辨シ二分通り關
係町村ノ協議費ヨリ支辨スヘキモノナルニ縣令ハ該工事
ニ付地方税ヨリ七分關係町村ヨリ三分ノ割合ヲ以テ之ヲ
支辨セリト假リニ一步ヲ讓リ該工事ハ治水ノ工事トスル
モ工費支辨ノ方法ニ至リテハ縣會ノ決議ヲ破リタルモノ
トス

右叙述セシ如クナレハ縣令ガ紀ノ川ノ工事ヲ起シ其工費

ヲ地方税ヨリ支辨シ地方税協議費分擔ノ程限ヲ動カシタルハ法律ヲ蔑如シ地方税ヲ濫用シ縣會ノ議權ヲ損害シタルモノナリ

縣令ノ答辨

紀ノ川ノ工事ヲ起セシハ堤脚ノ朽敗ニ會シ治水ノ舊圖ヲ一變シ石塙ヲ除去シ更ニ堤脚擁護ノ爲禿朶工法ヲ試用シタルモノニシテ夫ノ灌漑ノ利ノ如キハ隨テ收ムヘキモノタルニ由リ乃チ宮井下各村ノ請願ヲモ聽可シタルニ過キス明治十三年本縣丙第三百三十二號達土工條規第二十七條ニ適スヘキモノニアラス又其工費ニ關シ地方税協議費分擔ノ率ヲ變換シタルハ上三毛村ト宮井下各村トノ協議ニ成リタルモノニシテ宮井下各村ヨリ出費セシハ前陳隨

テ收ムル所ノ灌漑ノ利ニ酬ルノ特志ニ出テ地方費ノ輕減ヲ圖リタルモノナレハ強テ常率ニ拘ハルヘキモノニアラス依テ府縣會規則第三十七條ニ依リ常置委員ニ諮問シ可決ノ後舉行セリ
右叙述セシ如クナレハ法律ヲ蔑如シ地方税ヲ濫用シ縣會ノ議權ヲ損害シタルモノニアラス

審明

本件ヲ審明スルニ和歌山縣令カ紀ノ川ノ工事ヲ起シ土木費中治水費ヲ以テ支辨セシテ縣會ニ於テハ之ヲ灌漑ノ工事トナシ其工費ハ明治十三年和歌山縣丙第三百三十二號達土木條規第二十七條ニ依リ關係町村ノ協議費ヲ以テ支辨スヘキモノトセリ縣令ニ於テハ之ヲ治水ノ工事トナシ

其工費ハ該條規ニ依リ支辨スヘキモノニアラストセリ要
 スルニ右ハ土木費ノ支辨ニ關シ行政處分上ノ當否ヲ論ス
 ルモノニシテ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クヘキモ
 ノニアラサレハ本院ノ判決ヲナスヘキ限リニアラス其土
 木費連帶支辨ノ程限ハ明治十三年縣會ニ於テ地方稅ヨリ
 八分協議費ヨリ二分ト議決シ既ニ確定シタルニ縣令ニ於
 テ常置委員ニ諮問シ地方稅ヨリ七分協議費ヨリ三分ノ割
 合ニ變更シタルハ假令ヒ關係各村ノ協議ヲ以テ特志ニ出
 タルヲ採用シ地方費ノ輕減ヲ圖リタルモノトスルモ其程
 限ヲ動カスハ常置委員ニ諮問シテ舉行スヘキ限リニアラ
 ス

判決

右ノ理由ニ依リ縣令ハ既ニ確定シタル土木費連帶支辨ノ
 程限ヲ動スコトヲ得サルモノトス

明治十五年七月十四日

- | | |
|------------|-------|
| 審理委員參事院副議長 | 田中不二磨 |
| 同 參事院議官 | 山尾庸三 |
| 同 同 | 水本成美 |
| 同 參事院議官補 | 馬屋原 彰 |
| 同 同 | 久保田貫一 |
| 同 同 | 落合濟三 |
| 同 同 | 中山寛六郎 |

裁定書

秋田縣令 石田英吉
秋田縣會議長 成田直衛

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方稅出納決算ニ關スル事件ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ爭ヒ府縣會議規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰ク要領左ノ如シ

縣會ノ具狀

明治十五年通常縣會ニ於テ十三年度地方稅出納決算報告ヲ受ケ之ヲ調査スルニ支出部ニ於テ縣會議定ノ額ヲ超過スル通計金壹万九百拾六圓四十錢三厘ノ内前年度補充金欠損金ノ二項ト豫備費ヨリ支出セルモノト合計金三千九百十五圓七十錢九厘ヲ除キ剩額金七千圓七十二錢四厘ハ縣會ノ議定ヲ經ス縣令ノ專斷ヲ以テ支出セリ縣令ハ年度

尾決算ニ及ヒ豫算額ニ多少ノ増減アルハ出納上免ルヘカラス且規則中縣會議決ノ定額ヲ超過スヘカラサル明文ナク又内務卿ノ訓示ニ從フテ之ヲ支出シタルハ法律ニ背反シ縣會ノ權限ヲ犯セルモノニアラスト辨護スレモ地方稅規則第四條ニ據テ議案ヲ調成シ府縣會議規則第一條ニ據テ之ヲ議定シ已ニ該年度ノ定額ト決シタル上ハ縣令恣ニ其額ヲ超過スヘカラス若シ之ヲ超過スルモ妨ナシトセハ縣會ハ議定權ヲ有スルモノニアラスシテ議案ニ對シ其可否ヲ論議スルニ過キス内務卿ノ訓示ハ縣令ト内務卿トノ間ニ止リ縣會ノ與リ知ル處ニアラサレハ縣會ニ對シテ効力ヲ有セサルモノトス又政府カ縣會ニ與ヘタル權限ハ經費ノ豫算ト其徵收方法ヲ議定スルニ止リ實費ノ徵收方法ヲ

議定スルノ權ヲ享有セサレハ年度尾決算ニ於テ支出實費ノ不足スルモノヲ縣會ニ付セラル、ノ理由ナク殊ニ實費タル以上ハ之ヲ増減スルニ由ナク單ニ徵收ノ方法ヲ議スニ過キス果シテ此ノ如クナレハ縣令ハ前年度ニ於テ支出セル費用ヲ縣會ニ命シテ徵收スルモノ、如シ以上ノ理由ニ據リ縣令ノ所爲ヲ以テ縣會ノ權限ヲ犯スモノト認定セリ

縣令ノ答辨

明治十三年度地方税出納精算帳ヲ本年通常縣會ニ報告スルニ當リ豫算額ヨリ金七千圓七十二錢四厘超過スルヲ以テ縣會ハ地方税規則第四條ニ據テ該年度ノ定額ト決シタル上ハ縣令恣ニ之ヲ超過スヘカラスト陳辨スレモ其第四

條ハ豫メ翌年度ノ額ヲ定メタルニ止リ其收出共豫定額ヨリ増減スヘカラスト明示セラレタルモノニアラス元來豫算額ヲ目的トナシ出納スヘキハ勿論ナレモ年度尾精算ニ至リ收出共ニ増減アルハ出納上免カル可ラス其第七條ニ據リ收入ニ増シ支出ニ餘レハ地方税之ヲ繼續スヘク之ニ反シ收入ニ減シ支出ニ増スモ相當ノ理由アレハ地方税之ヲ負擔スヘキハ當然ノ義務ナリ假令法律中明文ナキモ第七條ノ意ニ含有スルモノニシテ法律規則ノ範圍ニ於テ許サレタルモノト確信セリ而シテ縣會ハ若シ定額ヨリ超過スルモ妨ケナシトセハ議案ニ因テ其可否ヲ論議スルニ過キスト云フト雖モ府縣會規則第六條ニ據ルニ縣會ハ精算帳ヲ査閱スル權アレハ何ソ議案ニ向テモ可否ヲ論スルニ

過キストセン又縣會ノ權限ハ收出豫算ヲ議定スルニ止リ
 實費徵收法ヲ議定スルノ權ヲ享有セザル者ナレハ實費ノ
 不足ヲ縣會ニ附セラル、ノ理由ナシト論スレモ縣會ハ地
 方稅ノ負擔者ナレハ過不足共又負擔セサルヲ得ヌ又實
 費ナル以上ハ之ヲ増減スル由ナシト云フト雖モ該超過金
 ハ豫算費目內増加スヘキ理由アルモノニシテ尾決外ノ事
 件ニ濫費シタルニ非サレハ縣會ハ精算帳ヲ査閲シ不當ト
 認ムレハ之ヲ上申シ至當トナスモハ補充法ヲ議定スベキ
 ナリ縣令ハ府縣官職制第六條明治十四年五月內務大藏兩
 省乙第二十七號達第五條第四節十三年八月內務卿指令及
 ヒ十三年十一月廿二日內務卿訓示ニ據テ實行セシモノナ
 レハ縣會ハ地方稅規則第七條ニ據リ意見アレハ內務大藏

兩卿ニ供申スヘキ者ニシテ法律ニ向テ權限ヲ爭フ限ニ非
 ラスト信ス依テ縣會ノ所見ハ法律ヲ誤認スル不當ノ見解
 ト認メタリ

審明

本件縣會ト縣令トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ
 爭フノ要點ハ地方稅規則第四條ニ據テ議定シタル豫算定
 額ハ實際ノ支出ニ臨ミ縣令ニ於テ縣會ノ議定ヲ經スシテ
 之ヲ超過スルヲ得ルヤ否ト云フニ在リ依テ之ヲ審案スル
 ニ豫算定額ハ一周年度出納ノ定限ヲ立テタルモノナリ故
 ニ縣會ノ議定ヲ經テ確定シタル以上ハ實際ノ支出ニ臨ミ
 不足ヲ生スルモ豫備費ヲ以テ之ニ充ツルト費目內流用支
 辨スルト當時ノ法律ニ從ヒ急施ヲ要スル非常ノ資用ヲ除

カノ外ハ更ニ法ニ照シテ縣會ノ議定ヲ經ルニアラサレハ其豫算ヲ超過支出スルコトヲ得ス然ルニ縣令ハ出納決算ニ臨ミ剩餘アレハ翌年度ニ繼續スルヲ以テ其不足モ亦當然縣會ノ負擔ニ歸スヘキハ地方稅規則第七條ニ含有セリト論スト雖モ剩餘ヲ生スルハ議權ニ害ナク其定額ヲ超過スルハ議權ヲ妨ケスト云フヘカラス但實際已ムヲ得サルノ不足ハ縣會ニ於テ之ヲ補充セサルヲ得スト雖モ之ヲ支出スルニハ縣會ノ議定ニ付セサルヲ得ス又縣令ハ豫算費目内ニ於テ相當ノ理由アルカ爲ニ増費ヲ來シタルモノニシテ豫算外ノ事項ニ濫費セシニアラスト云フト雖モ其費途豫算外ノ事項ニ係ルト否トニ拘ラス議定ヲ經サレハ定額ヲ超過スヘカラサルノ理ニ至テハ則一ナリ又縣令ハ府

縣官職制第六條明治十四年五月內務大藏兩省乙第二十七號達第五條第四節明治十三年八月內務卿指令并同年十一月廿二日內務卿訓示ニ於テ施行スト云フト雖モ府縣官職制內務大藏兩省達ハ超過ノ額ヲ縣會ノ議定ニ付セスシテ支出スルヲ得ルト否トノ論點ニ關係ナク又內務卿指令并訓示ハ本件ニ對シ効力ナキモノトス

判決

右ノ理由ニ依リ縣令ハ縣會ノ議定ヲ經スシテ豫算定額外ノ支出ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

明治十五年七月廿六日

審理委員長參事院副議長 田中不二麿

審理委員 參事院議官 鶴田 鵬

キ再議スヘキ旨達セラレタリ故ニ本會ニ於テハ再ヒ之ヲ
 討議スト雖而結局前議ノ旨趣ニ決シタルヲ以テ十四年七
 月廿三日之ヲ縣令ニ開申セリ其八月三日ニ至リ縣令ハ辰
 第廿七號ヲ以テ甲第四號ノ二甲第七號ノ内云々ハ其筋經
 伺ノ上追テ何分ノ儀可相達但乙第一號モ追テ何分ノ儀可
 相達事ト達セラレ同十月廿六日ニ至リ辰第三十二號ノ達
 ニテ本年辰第廿七號ヲ以テ議決ニ對シ相達置候處云々甲
 第四號ノ二病院費ハ前年度地方稅病院費豫算額ニヨリ藥
 價收入金ノ外金貳千圓ヲ以テ施行シ而シテ議決ヨリ増額
 スル金千圓ハ地租ニ賦課徵收スヘキ旨内務卿ノ指揮ニ付
 則施行候旨達セラレ同日乙第一號ノ決議案ニ對シ認可ノ
 指令ヲ付シ且其但書ニ地價割稅ノ儀ハ辰第三十二號ノ通

増課スル旨ヲ添加セラレタリ夫レ縣令ニ於テ内務卿ノ指
 揮ヲ請ヒ其指揮ニヨリ費額ヲ増加シタルニ成規ノアルア
 レハ又將々之ヲ如何セン然而特ニ其徵收方法ヲ定メ増費
 ナ地價ニ賦課スルハ實ニ府縣會規則第一條後段ノ旨趣ニ
 背反シ議會ノ權限ヲ犯シタルモノトス

縣令ノ答辨

縣會ハ明治十四年度福島病院ノ經費其地方稅ヲ以テ支辨
 スヘキモノ金三千九百貳拾九圓五錢ノ豫算ナルヲ金一千
 圓ト議定シ縣令ニ開申シタルノミニテ其徵收方法ニ至テ
 ハ曾テ議定ヲ經サルモノ、如クスト雖而乙第壹號議案即
 チ病院費ハ勿論一切ノ支出豫算ヲ包括シタル徵收方法ヲ
 議スルニ當リ前ニ決定シタル壹千圓ヲ加ヘ其減額シタル

所ノ貳千九百貳拾餘圓ヲ減殺シテ決定セリ是則該費ノ徵收方法ヲモ議定シタルニアラスシテ何ソヤ然ラハ則經費ノ豫算及徵收方法共ニ縣會ノ議定ヲ經タル昭々トシテ明ナリ故ニ之ヲ認可スルト否トハ皆縣令ノ權内ニ屬スルヲ以テ之ヲ内務卿ニ具申シ其指揮ニヨリ經費ノ豫算及徵收方法ヲ施行スルハ固ヨリ當然ノ事ニシテ府縣會規則第一條ノ後段徵收方法ヲ議定ストアルノ旨趣ニ背反スルナシ又縣會ノ權限ヲ犯シタルモノニアラス則同規則第五條ニ適當シタル處分ナリトス

審明

本件ヲ審按スルニ縣會ハ縣令ニ於テ甲第四號議案ノ二即チ福島病院費ハ府縣會規則第五條ニヨリ内務卿ノ指揮ヲ

請ヒ其指揮ニヨリ經費額ヲ増加シタルハ成規ニヨルモノナレトモ縣會ノ議決ヲ經ス特ニ其徵收方法ヲ定メ増額ヲ地租ニ賦課シタルハ府縣會規則第一條後段ノ旨趣ニ背反シ議會ノ權限ヲ犯シタルモノト具狀シ縣令ハ乙第一號議案即チ病院費ハ勿論一切ノ支出豫算ヲ包括シタル徵收方法ヲ議スルニ當リ前ニ決定シタル一千圓ヲ加ヘ其減額シタル所ノ貳千九百貳拾九圓五錢ヲ一括シテ決定セリ是レ即チ該費ノ徵收方法ヲモ議定シタルニアラス何ソヤ已ニ縣會ノ議定ヲ經タル上ハ之ヲ認可スルト否トハ縣令ノ權内ニ屬スルヲ以テ府縣會規則第五條ニヨリ内務卿ノ指揮ヲ請ヒ其指揮ニヨリ施行シタルモノナレハ府縣會規則第一條ノ後段徵收方法ヲ議定スノ旨趣ニ背反スルコトナシ

又縣會ノ權限ヲ犯シタルモノニアラス即チ同規則第五條ニ適當シタル處分ナリト答辨ス是ニ由テ之ヲ觀レハ縣令ニ於テモ其徵收方法會テ縣會ノ議決ヲ經サルモノナレハ假令ヒ內務卿ヨリ經費額ノ指揮アリト雖モ其徵收方法ハ固ヨリ議定ニ付スヘキモ其全体ニ就テ既已ニ經費豫算及ヒ徵收方法共ニ議決ヲ經タルモノナルヲ以テ第五條ニヨリ處分セタリトノ陳述ナレハ府縣會規則第一條及第五條ニ就テハ縣令ト縣會トノ間ニ於テ其見解ノ異ナル所アルヲ見ス唯其歸着スル所ハ施行ノ手續ニ關シ事實上其意見ヲ異ニシタルモノニ過キスシテ權限ヲ爭フモノニ非ラス而シテ府縣會規則第九條ニ府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ

雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシトアリ參事院ハ府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フモノヲ裁定スル所ナリ然ルニ本件ノ如キハ權限ノ爭ニ係ルモノニアラサルヲ以テ參事院ニ附シ裁定ヲ請フヘキモノニアラス

判決

右ノ理由ニ依リ本件ハ參事院裁定ノ限ニアラス

明治十五年十月廿七日

- 審理委員長參事院副議長田中不二麿
- 審理委員 參事院議官 安場保和
- 同 同 渡邊昇
- 同 參事院議官補清浦奎吾

同

參事院議官補廣瀨進一

同

同 村上義雄

同

同 小池靖一

○ 裁定書

廣島縣令 千田貞曉

廣島縣會議長 前田篤之助

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方郵便費ノ件ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ

縣會ノ具狀

明治十五年通常縣會議案中郵便費ノ豫算金ト掲載シアリ

ト雖昨今般地方郵便法改正セラレ八月一日ヲ以テ之カ實施ヲ爲セリ其經費ノ額ハ縣令ト驛遞總官ト決約シタルノ後之ヲ議案ニ付シタリ要スルニ事業ノ興廢ハ縣令ノ權内ニ左右セラルト雖昨其事業ヲ活動セシムル經費ニ於テハ之カ豫算ヲ起シ以テ縣會ニ付シ其決議ヲ經ルニ非レハ地方稅ヲ以テ支辨スル事業ハ實施ス可ラサルモノトス然ルニ事業興廢ノ一部内ニ援引シテ之ニ屬スル經費モ隨テ實際現費ニ而シテ豫算ノ稱呼ヲ付シ縣會ノ決議ヲ要ストセハ議會ハ之ヲ増減スルニ由ナク議案ノ精神ニ悖ルヤ明ナリ假令事業ノ地方ニ適當至便ナリト雖モ府縣會規則第一條ノ明文ニ依リ必ス其順序ヲ踐マスンハアラス抑此事件ハ明治十五年二月縣令ヨリ驛遞局へ照會シタルヲ以テ

始メトシ八月一日縣下へ實施シタルニ終ル然ルニ八月三日ニ至リ常置委員ニ諮問シ順序ノ誤アルヲ陳謝シ其答申ヲ得タルヲ以テ見レハ縣令ハ之ヲ獨斷實施シタルコト明ナリ然レハ其豫算ヲ縣會ニ付スト雖其事實ハ縣令ト驛遞總官トノ間ニ於テ經費ノ金額ヲ確定決約シ一種不動ノ經費ヲ以テ議案中ニ挿入シタル者ト云フ可シ是レ實費ニシテ豫算ニ非サルヲ以テ縣會ニ於テ審議討論スルモ其結果ヲ爲ス能ハサルニ至ラシムルハ縣令カ法律ヲ誤解シ議會ノ議權ヲ犯シタルモノト認定セリ

縣令ノ答辨

本縣管轄ハ安藝備後ノ二國ニ跨リ山川隔絶郵便ノ線路普ク通セス之カ爲メ官民ノ不便少カラサルヲ以テ郵便局ノ

増設ヲ驛遞總官ニ照會セシニ總官ヨリ其費額ノ幾分ヲ前收シ以テ地方郵便ノ特別法ヲ開カントヲ商議セラレタルニヨリ地方稅ヨリ支出スル郵便稅ヲ調査シ尙明治十五年三月廿九日縣會へ下付シタル十五年度經費議案ノ郵便費額ニ照シ金一万千八百四十圓ハ地方稅ヨリ金千三百六十圓ハ縣廳經費ノ内ヨリ支出スヘキ見込ヲ以驛遞總官へ稟申シ七月七日管下へ布達シ八月一日ヨリ之ヲ實施セリ之ヲ常置委員ニ諮問スルノ順序ハ先後アレトモ其事由ヲ説明シテ可決ヲ得タリ之ヲ本件事實ノ要領トス然ルニ縣會ハ縣令ニ於テ縣會ノ議定ヲ經スシテ前納ノ金額ヲ結約シ利ニ執行ノ後ニ於テ常置委員ニ諮問シ縣會ニ於テ動ス可ラサルノ金額ヲ豫算ニ掲ケタルハ法律ヲ誤解シ議權ヲ

犯シタリト陳述スト雖府縣會ノ權限ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算ト其徵收方法ヲ議定スルニ止リ縣下一般ノ事業ヲ執行スルハ縣令固有ノ權ニシテ其事業ニ密着セル金額ヲ結約スルハ亦縣令ノ權内ニ在リ然ラハ地方郵便執行ノ結約ヲ爲スハ則一事業ニシテ之ヲ執行スルハ縣令ノ權内ナレハ之ニ離ル可ラサル郵便稅前納ノ額ヲ結約スルモ亦縣令ノ權内ニ在ルコト論ヲ跋タス而シテ其豫算議案ハ縣會ニ於テ當否ヲ審議シ之ヲ増減スルヲ得ルハ素ヨリ其權内ニ在ルヲ以テ其前納金ヲ結約シタルカ爲メ議權ヲ支障スルノ理ナシ既ニ縣會ハ討論審議ヲ遂ケ該議案ヲ議了セシニ依テ見ルモ議權ヲ妨害セサルコト明ナリ元來地方郵便法ハ郵便稅支出ノ一點ニ至リ時日ノ前後ア

ルノミニシテ敢テ其異動ヲ來サ、ルノミナラス十五年度ノ經費豫算額ハ議定セサル以前ト雖モ十四年度豫算額ヲ以テ假リニ施行スルヲ得可キコト縣會ノ決議スル所ナレハ則右郵便費モ該議定ノ範圍内ニ在ルヲ以テ常置委員へ諮問シテ執行シタルハ法律ニ反セサルモノト確信セリ

審明

本件縣令ト縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニスルノ要點ハ縣令カ地方郵便ノ前納金額ヲ結約シタルノ後之ヲ豫算議案ト爲シ縣會ノ議定ニ付シタルハ法律ニ反スルモノタリヤ否ニ在リ依テ之ヲ審按スルニ縣下各般ノ事業ヲ執行スルハ縣令ノ權内ニ在リ故ニ地方郵便ヲ開クハ縣令ノ權内ニ存シ其前納ノ金額ヲ結約スルハ之ヲ執行スルノ方

法ニ過キサルヲ以テ固ヨリ縣會ノ議定ヲ經ルヲ要セス且
結約ノ後ニ於テ其金額ヲ豫算議案ト爲スモ縣會之ヲ審議
増減スルニ妨ナキヲ以テ縣會ノ議權ヲ侵シタルモノニア
ラス

判決

右ノ理由ニ依リ縣令カ地方郵便ノ前納金額ヲ結約シタル
ノ後之ヲ豫算議案ト爲シ縣會ノ議定ニ付シタルハ法律ニ
反セサルモノトス

明治十五年十一月廿日

審理委員長 參事院副議長 田中不二磨
審理委員 參事院議官 山尾庸三
全 全 田中光顯

同 參事院議官補 岩崎小二郎
同 同 周布公平
同 同 大森鍾一
同 同 黒田綱彦

裁定書

廣島縣令 千田貞曉

廣島縣會議長 前田篤之介

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ廣島病院三次分局拂下ノ件ニ
付法律ノ見解ヲ異ニシ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰
クノ要領左ノ如シ
縣會ノ具狀

明治十五年通常縣會甲第六號議案衛生及病院費豫算ニ廣島病院三次分局費ヲ積算セズ其説明ヲ見ルニ三次郡各村聯合會ニ於テ將來之ヲ郡立トナサンコトヲ決議シ備付品及貯藏ノ藥品等現在ノ儘金五百圓ヲ以テ拂下ヲ請願シタルニ付之ヲ採用セント欲スルニ由ルトアリ又同乙第三號議案地方稅收入豫算仕譯ヲ閱スルニ金五百圓廣島病院三次分局郡立ニ付庶品拂下代トアリ右ハ縣會ノ意見ヲ問ハソカ爲ニ發シタル議案ト認メテ之ヲ審議セントセシニ縣令ハ去七月三日ヲ以テ突然其拂下ヲ許可シタリ依テ之ヲ縣令ノ代理者ニ質スニ事業ノ興廢伸縮ハ府縣會規則第一條及內務卿訓示第四條第六項ノ明文アルヲ以テ常置委員ニ諮問ノ上ハ之ヲ交換貸付賣買スル等皆縣令ノ權内ニ在

リ故ニ此議案ハ縣會ノ意見ヲ問フノ意ニ非スト答辨セリ其議案ヲ發スルノ意ハ姑ク論セス府縣會規則第一條ニ依リ該病院ヲ廢スルハ縣令ノ權内ニ在リトスルモ縣會モ亦其收入豫算ニ對シ當否増減ヲ論スルノ權アルハ同條ニ判然タリ今縣會ノ審議ニ付スルニ實際舉行シタル金員ヲ以テシ之ヲ増減スルニ由ナカラシム是縣令カ縣會ニ對シ不當ノ處分ヲ爲シタルモノトスルノ第一ナリ縣會ハ內務卿ノ訓示ニ依ルト言フト雖モ其訓示ハ常置委員職權一己ノ部内ニ止リ縣會ノ權限ヲ制定シタル一般ノ法律ニ非ス故ニ縣會ニ對シテ効力ヲ有セス假ニ効力アリトスルモ訓示第四條ハ府縣會規則第三十七條ヲ解釋シタルモノニシテ其第三十七條ニハ常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ云々ト

アレハ荷モ常置委員ニ諮問スヘキモノハ必ス府縣會決定
 上ノ事業ヲ施行スルノ方法順序ニアラサレハ臨時急施ヲ
 要スル場合ニ於テ其經費ヲ議定スルニ在リ然ルニ三次分
 局ノ如キハ地方稅ヲ以テ繼續維持シ來テ其經費消亡セシ
 等ノ事會テ縣會ノ議定セシモノニアラサレハ此諮問ハ縣
 會ノ議決ニ依ラサルノ諮問ト云フ可シ且之ヲ臨時急施ヲ
 要スト云フ可ラス是縣令カ縣會ニ對シ不當ノ處分ヲナシ
 タルモノトスルノ第二ナリ若シ假ニ臨時急施ノ要スルモ
 ノトスルモ通常縣會開場中ニ際會シタレハ本會ノ議定ヲ
 取ルヲ得ベシ然ルニ其處分ニ及ハス是縣令カ縣會ニ對シ
 不當ノ處分ヲナシタルモノトスルノ第三ナリ以上論スル
 所之ヲ規則ニ質シ之ヲ事理ニ徵スルモ縣令ノ處分法律ヲ

誤解シ議權ヲ犯シタルモノト認定セリ

縣令ノ答辨

廣島病院三次分局ハ明治十二年之ヲ創設シ地方稅ヲ以テ
 經營レ來リシカ十四年十二月三次郡各村聯合會ニ於テ該
 郡ヘ拂受ケ十五年七月一日ヨリ郡立病院ト爲サント議決
 シ郡長ヨリ十五年二月二日ヲ以テ右讓受方等ノ儀ヲ縣令
 へ稟請セリ縣令ハ其得失ヲ考量シ該郡ノ請求ニ應セント
 思定シタルヲ以テ同三月ニ開キタル通常縣會ノ議案ニ三
 次分局費ヲ積算セス收入豫算議案ニ附屬スル仕譯書雜收
 入ノ細目ニ於テ三次分局拂下見込代金ヲ積算明示シテ之
 ヲ縣會ニ付セリ此等ノ事ヲ執行スルハ縣令ノ權内ニ在ル
 ヲ以テ常置委員へ諮問ヲ經テ該郡ノ稟請ヲ允許シ代金五

百圓ヲ以テ拂下ノ事業ヲ執行セリ然ルニ縣會ハ府縣會規則第一條ニ依リ收入豫算ノ當否増減ヲ議定スルハ縣會ノ權ナルニ縣令ハ其收入豫算ノ議定ヲ經サル前ニ於テ五百圓ヲ以テ拂下ノ處分ヲ結了シ其當否ヲ審議スルヲ得サラシメタルハ同條ニ背キタルノ所爲ナリ又同規則第三十七條常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ云々トゾルニ背キ又假ニ臨時急施ヲ要スルモノトスルモ同條ヲ適用ス可キニアラサレハ是又同條ニ背キタル所爲ナリト論辨スト雖モ縣會權限ハ同規則第一條ニ明文アルカ如ク經費ノ豫算及徵收方法ヲ議定スルニ止リ其事業ヲ議定スルノ權ナシ縣令ハ府縣官職制第一條ニ明文アルカ如ク部内ノ行政事務ヲ總理スルノ職權アル上ハ其一縣ノ事ヲ執行スルハ其固有

ノ權ナレハ廣島病院事業ノ内三次分局ノ事業ヲ廢スルニ當リ之ト相離ルヘカラサル物品ノ代價ヲ定ムルモ其權内ナルハ言フ俟タス而シテ其執行ニ際シ常置委員ニ諮問シタルハ十四年度經費及徵收豫算縣會ノ議定ニ依リ府縣會規則第三十七條前項ノ手續ヲ經テ執行セシモノニシテ其拂下代金ヲ十五年度收入豫算ニ編入シアルハ十四年度ノ末日即十五年六月三十日限り地方稅支出ヲ止メ併セテ物品ノ拂下ヲ爲スモ其代金ハ十五年度ニ入ラサレハ實際收入ニ至ラサレハナリ故ニ是等ノ金額ヲ議案中ニ編入シタルモ縣會ニ於テ右ノ理由ヲ審案セハ之ヲ議スルニ際シ議權ニ關係ヲ爲スヘキモノニアラス假ニ此執行ヲシテ十五年度ノモノトシテ論スルモ縣會ニ於テ既ニ十五年度經費

議定前ハ十四年度ノ經費ニ依リ執行スヘキコトヲ議定シタル上ハ決テ議權ヲ犯シタルモノニ非スト信認セリ且縣會ハ急施ヲ要ス云々ト陳述スト雖本件ハ臨時急施ノモノトシテ執行セシニ非レハ之ニ答辨セス

審明

本件縣令ト縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニスルノ要點ハ縣令カ縣會ノ議定ヲ經スシテ廣島病院三次分局拂下ヲ許可シ其拂下代金ヲ收入豫算ニ編入シタルハ法律ニ反スルヤ否ニ在リ依テ之ヲ審按スルニ凡地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ヲ伸縮興廢スルハ縣令ノ權内ニアリ故ニ三次分局ノ拂下ヲ許可スルハ固ヨリ其權内ニ在ルヲ以テ之ニ密着セル拂下代價ヲ定ルモ亦其權内ニ在ルハ論ヲ俟タス

故ニ先之ヲ執行シテ然ル後之ヲ收入豫算ニ編入シ以テ縣會ノ議定ニ付スルモ法律ニ反スル所ナシ又縣會ハ三次病院ノ經費消亡ハ未タ縣會ノ議定ヲ經サルモノニ付府縣會規則第三十七條ニ常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ云々トアレハ縣令カ常置委員ニ諮問シタルハ縣會ノ議定ニ依ラサルノ諮問ニシテ縣會ニ對シテ効力ヲ有セスト陳述スト雖モ右三次病院ノ經費ハ既ニ縣會ノ議定ヲ經タルモノナレハ其諮問ハ無効ニアラサルモノトス

判決

右ノ理由ニ依リ縣令カ縣會ノ議定ヲ經スシテ廣島病院三次分局拂下ヲ許可シ其拂下代金ヲ收入豫算ニ編入シタルハ法律ニ反セサルモノトス

明治十五年十二月十一日

七十四

審理委員長 參事院副議長 田中不二麿

審理委員 參事院議官 山尾庸三

同 同 田中光顯

同 同 參事院議官補 岩崎小二郎

同 同 周布公平

同 同 大森鍾一

同 同 黒田綱彦

○

裁定書

廣島縣令 千田貞曉

廣島縣會議長 前田篤之介

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方稅土木費中測量費支辨方
ノ件ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ府縣會規則第九條ニ依リ裁
定ヲ仰クノ要領左ノ如シ

縣會ノ具狀

明治十五年通常縣會甲第三號議案中治水費ノ内金四千三
百十六圓餘太田川芦田川治水測量費ノ豫算アリ其説明書
ヲ見ルニ測量費額惣計壹萬百貳拾四圓餘内十四年度ニ於
テ治水費中各川堤防費ヨリ三千貳百八拾貳圓餘ヲ流用着
手シ漸次十六年度ニ至リ此事業ヲ全成セント欲ストアリ
其事業ハ三ケ年ニ跨リ經費モ亦三ケ年ニ支辨スヘキ大土
功ナルニ縣令ハ之ヲ縣會ノ議定ニ付セス獨斷ヲ以テ十四
年度中業已ニ之ヲ執行セリ依テ縣令ノ答辨ヲ要メタルニ

七十五

縣令ハ此事業ヲ起スニ當リ其經費豫算ヲ縣會ニ付セス常置委員ニ諮問ノ上之ヲ舉行シタルハ府縣會規則第一條ニ依リ縣會ハ經費ノ豫算ヲ議定スルノ權アルモ其事業ヲ興廢伸縮スルハ縣令ノ權内ニアリト辨明セリ該規則ニ依レハ縣會之ヲ議定スルノ權ナキカ如シト雖モ縣會ハ功益ノ有無ト民力ノ厚薄トヲ考察シ以テ其事業ニ密按スル經費ヲ左右増減スル議權ヲ有スル以上ハ其事業ノ興廢伸縮モ亦從テ進退スヘキハ理ノ當然ナリ然ルニ縣令ハ其經費豫算ヲ縣會ニ附セス常置委員ノ答議ニ依テ決行セシハ之レ縣令ノ處分ヲ不當トナスノ第一ナリ又タ縣令ハ堤防費ニ餘贏アルヲ以テ內務卿ノ指令ヲ受ケ之ヲ治水費中ニ編入シ地方稅規則第三條ニ依リ該經費ニ流用シタリト辨明ス

ト雖モ堤防費ト測量費トハ大ニ其性質ヲ異ニシ加之該業ハ縣會ノ豫知セサル所該費ハ縣會ノ議定セサル所ナレハ全ク新規創設ノ事業ナリ然ハ則チ議定額内ノ費目ニ就キ甲乙其事業ヲ伸縮シ彼此其費用ヲ加減流用スル者ト同一般ノモノニ非ス故ニ同規則第三條ヲ適用スルノ限ニ在ラズ且內務卿ノ指令ハ費目編入ヲ指示スルニ止リ之ヲ舉行支出スルノ權限ヲ指示シタル者ニ非レハ本件ノ當否ヲ論スルニ關係ナシ若シ之ヲ關係アリトスルモ內務卿ト縣令トノ間ニ止リ縣會ニ對シテ効力ヲ有セザル者トス是縣令ノ處分ヲ不當トスルノ第二ナリ

附錄

測量事業ニ着手セシハ十四年七月一日ナリ而シテ當時縣

開會中ニシテ其議決ヲ認可ト受ケシハ同月二十五日ナリ然レハ堤防費ノ内ニテ流用セントスルモ豫算未タ立タサルノ日ナレハ他ノ一大費途ニ流用スルヲ得ルヤ否ヲ考察認定スルヲ得ス若シ實ニ舉行ス可キノ事業ナレハ宜シ該業ノ豫算増加議案ヲ當時開會中ノ縣會ニ下附ス可キニ此手續ニ及ハサリシハ當然ノ處置ニ非ス加之常置委員ニ諮問セシハ十五年三月一日ナリ是ニ由テ之ヲ觀ルモ縣令カ權限ヲ恪守スルノ處分ト爲ス可ラサル也

右ニ依リ縣令カ該事ヲ舉行シタルハ法律ヲ誤解シ縣會ノ議權ヲ犯シタルモノト認定セリ

縣令ノ答辨

縣下太田川蘆田川ハ積年土砂流出シテ河水ノ流通ヲ妨ケ

其害沿川ノ良田ニ及フヲ以テ其改修ハ實ニ緊要ノ事業タリ依テ和蘭水理工程師來縣ノ際之ヲ諮問セシニ先ツ累日ノ水勢ヲ檢シ緻密ノ測量ヲ要スト爲スニ付其測量ノ事業ヲ起サントシ其經費ノ何費目ニ屬スルヤヲ内務卿ニ伺タルニ治水費ニ屬スルノ指令アリ尋テ着手ノ方法ヲ計畫シ十四年度ニ於テ業ヲ起サント決心セシハ既ニ同年度ノ豫算議案ヲ發セシ後ナリ故ニ若シ之カ爲メニ増費ヲ要スルモノナラシメハ其増加議案ヲ發スヘキナリト雖トモ熟々考察スルニ既發ノ豫算議案中測量費ハ積算シアラサルモ當初豫算ノ后物價低降ノ徴アルノミナラス十三年度中臨時被害ノ箇所別途ノ經費ヲ以テ修築スヘキモノハ幾分カ通常ノ修繕ヲ減スヘキ見込ナリ故ニ其豫算堤防費額内ニ於

テ流用支辨シ得ヘキヲ以テ別ニ増加議案ヲ發セス大田川ノ測量ハ十四年七月一日ニ着手セシカ堤防費ハ原案額ニ決シ當初ノ見込ニ反セサルガ故ニ尙其事業ヲ繼續セリ然レモ其着手ノ際常置委員へ諮問ノ手續ヲ脱漏セシヲ以テ十五年二月二十四日其事由ヲ説明シテ諮問ノ順序ヲ爲シ三月八日可決ノ答申ヲ得タリ蘆田川ノ測量ハ十四年十一月中常置委員へ諮問ヲ經テ十二月一日着手セリ此兩川測量事業ヲ執行セシ事實ノ要領ナリ然ルニ縣會ハ十四年度土木費豫算議案中ニ測量費ノ細科目ヲ設ケ議定シアラサルヲ以テ此事業ハ府縣會規則第一條第三十七條及ヒ地方稅規則第三條第四條ニ違反シ縣會ノ議權ヲ犯シタルモノト論辨スレトモ府縣官職制第一條ニ府知事縣令ハ部内ノ

行政事務ヲ總理シ云々トアリ此測量費ノ如キ即チ縣ノ事業ヲ興廢伸縮スルハ縣令固有ノ權内ナリ又府縣會規則第一條ニ府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨ス可キ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定スルノ明文アリテ事業ヲ議定スルノ條ナシ且府縣會ノ事業ヲ議定スルノ權ナキハ明治十一年第十八號布告府縣會規則第五條ニ凡地方稅ヲ以テ施行スヘキ事件ハ府縣ノ會議ニ付シ云々トアリシヲ明治十三年第十五號布告ヲ以テ其事件云々ノ字ヲ刪除セラレタルニ依ルモ明瞭ナリ而シテ地方稅規則第三條ニ小費目ノ流用ヲ禁セサル上ハ細科目ニ掲ケサル事業ノ起ルアレハ大費目ノ範圍外ニ出テサルニ於テハ縣會議定ノ大費目中何レノ小費目ヨリ流用支辨スルモ法律ノ禁スル所ニ非ス右測量

費ハ治水ノ爲メニ要スルモノニシテ土木費中治水費ヲ以テ支辨スヘキコト相當ナリ故ニ測量費ナル細科目ノ分設ナキモ其費用ハ地方税規則第四條府縣會規則第一條ニ依リ縣會議定ノ土木費豫算額内ヨリ流用シ其事業ノ執行ニ府縣會規則第三十七條ニ依リ常置委員へ諮問シテ實行セリ之ヲ法律上正當ノ順序ナリト信認ス又縣會ハ十四年度土木費豫算議定ノ認可ハ十四年七月廿五日ニシテ太田川ノ測量ハ七月一日ニ着手セルヲ以テ議定ノ以前ニ流用スルノ金額アルヲ得スト陳辨スレトモ前段ニ述ヘタル如キ事實ニ付到底縣會ノ議定額ニ超過セサル以上ハ縣會ノ權ニ關係ヲ有セサルナリ且太田川測量ニ着手セシハ縣會中ナレハ更ニ測量費ノ増加議案ヲ發スヘキナリト陳辨スレト

モ元ト縣會ハ事業ヲ議定スルノ議會ニ非サレハ當初發セシ議案ノ金額ニ於テ不足ヲ生セサルノ目的アリテ別ニ増費ヲ要セツルモノハ更ニ議案ヲ發スルニ及ハス

審明

本件縣令ト縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニスルノ要點ハ縣令ハ縣會ノ議定シタル土木費内ニ於テ縣會ノ議定ヲ經スシテ新ニ太田川蘆田川ノ測量事業ヲ興シ其費用ヲ流用支辨スルヲ得ルヤ否ニ在リ依テ之ヲ審按スルニ縣會ハ地方税ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及其徵收方法ヲ議定スルノ權ヲ有シ右地方税ヲ以テ施行スル事業ヲ興廢スルハ縣令ノ權内ニ在ルコト府縣會規則及ヒ府縣官職制ニ判然タリ然ルニ縣會ハ其事業ニ密接スルノ經費ヲ増減ス

ル議權ヲ有スル以上ハ隨テ事業ノ興廢ヲ左右スヘキハ理
 ノ當然ナリト陳述スト雖縣會カ經費豫算ヲ議スルニ當リ
 言或ハ其事業ノ利害ニ及フコトアルモ之ニ文ヲ認テ事業
 ヲ興廢スルノ權アリト断定スヘカラス又縣會ハ堤防費ト
 測量費ト其性質ヲ異ニシ加之此事業ハ縣會ノ豫知セサル
 所ニシテ全ク新創ノ事ニ係レハ尋常一般ノ流用ト同カラ
 スト陳述スト雖モ地方稅規則ハ費目互ニ流用スルヲ禁ス
 ルモ一費目内ノ流用ヲ禁セス其堤防費ト測量費トハ其性
 質ヲ異ニスルモ同ク土木費内ニ屬スルモノナレハ縣令カ
 其費目内ヲ以テ新ニ一ノ細科目ヲ設ケ便宜流川支辨スル
 ハ固ヨリ縣令權内ニ存ス其他縣會カ內務卿ノ指令ヲ本作
 ニ關係ナシト爲シ及ヒ測量着手ノ日ハ當時縣會開會中ナ

ルヲ以テ増加議案ヲ發スルヲ得ヘク當時流川ノ見込ヲ立
 ツヘキニ非スト論スルハ本作法律ノ見解ニ就キ關係ヲ有
 セス

判決

右ノ理由ニ依リ縣令カ縣會ノ議定シタル土木費内ニ於テ
 縣會ノ議定ヲ經スシテ新ニ太田川蓋田川ノ測量事業ヲ興
 シ其費用ヲ流用支辨シタルハ法律ノ禁スル所ニアラス
 明治十五年十一月廿日

- | | | |
|-------|--------|-------|
| 審理委員長 | 參事院副議長 | 田中不二麿 |
| 審理委員 | 參事院議官 | 山尾庸三 |
| 同 | 同 | 田中光顯 |
| 同 | 參事院議官補 | 岩崎小二郎 |

同	同	同
周布公平	大森鐘一	黒田綱彦
同	同	同

裁定書

滋賀縣令 籠手田安定

滋賀縣會議長 川島宇一郎

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ會議諸費不足補充ノ事件ニ付
 法律ノ見解ヲ異ニシ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰ク
 ノ要領左ノ如シ

縣會ノ具狀

明治十五年十一月廿七日臨時縣會ニ於テ第六號明治十四

年度會議諸費不足補充議案ヲ受ケ之ヲ審議シタルニ十四
 年度會議諸費ノ不足ハ同年度通常縣會ノ延期ヨリ生シタ
 ル費額ニシテ今之ヲ會議ニ附スルモ其金額ヲ増減スルコ
 能ハサルモノナレハ此ハ決算報告ニ受クルモ十五年度ノ
 臨時縣會ニ於テ之ヲ議スルノ要用ナラサルヲ信シ其議案
 ナ全廢シタリ然ルニ縣令ハ其決議ヲ認可セス之ヲ再議ニ
 附シタルヲ以テ縣會ハ法律ノ據ルヘキナキニ苦ミ之ヲ縣
 令代理ニ質シタルニ縣令代理ハ本案ノ不足金額ハ假ニ支
 出シタルモ決算ト視做スヘキモノニアラス豫算ノ徵收方
 法ヲ議スルノ部内ヲ以テ豫備費ヨリ支辨スヘキカ又ハ別
 途徵收スヘキカヲ議スルノ問題ナレハ府縣會規則第一條
 ニ依テ之ヲ議スヘシト辨明シタリ此ノ如ク十四年度中ニ

既ニ支出シタル會議諸費ノ不足補充議案ヲ十五年度ノ臨時縣會ニ附シ豫算ノ徵收方法ヲ議スルノ部内ナリトノ見解ヲ以テスルハ縣會ハ單ニ議案ノ可否ヲ論議スルニ止マリ之ヲ議定スルノ權ナキモノ、如シ抑地方稅規則第四條ニ依テ議定シタル一周年度ノ經費定額ハ支辨ニ際シ縣令ニ於テ恣ニ其制限ヲ超過スヘカラサルモノナレハ十四年度通常縣會延期ノ故ヲ以テ會議諸費ノ定額ニ不足ヲ生スルハ同年度内其支出ヲ要スル場合ニ於テ不足追加ノ豫算議案ヲ發シテ縣令ノ議定ニ附シ翌年度ノ通常縣會ニ決算ノ報告ヲナサ、ルヘカラス果シラ然ラハ縣令代理ノ辨明ハ牽強附會ノ見解ト云フヘシ又府縣會規則第一條ハ此ノ如キ不足補充ノ徵收方法ヲ議スヘント云フニアラス

府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及其徵收方法ヲ議定ストアリ及ヒ其トハ上下ヲ連絡シタル文字ナレハ縣會ハ經費ノ豫算ト其豫算ノ徵收方法トヲ議定スルノ權ヲ有スルニ止マリ實費不足ノ補充ヲ議定スルノ權ヲ有セス、故ニ十四年度ニ於テ地方稅規則第四條ニ依テ議定シタル會議諸費ノ定額ニ超過スル金貳千百八拾壹圓四拾三錢四厘ヲ縣令ニ於テ既ニ專斷支出シ其不足補充ノ議案ヲ十五年度ノ臨時縣會ニ附シ府縣會規則第一條ニ依テ之ヲ議スヘシト云フハ法律ノ見解ヲ誤リタルモノト信認ス

縣令ノ答辨

明治十四年度ノ會議諸費ハ開會日數三十日ノ豫算ナリシニ全年度通常議會ノ日數延テ八十餘日ニ及ヒタルヨリ豫

算定額ニ不足ヲ生シタレ其不足ハ明治十四年内務大藏
 兩卿乙第廿七號達第五條ニ依リ措辨スルノ見込ナリシニ
 十四年度實費決算ヲ爲サントスルニ際シ豫備費ニ剩餘ヲ
 生シタルニ因リ其剩餘ヲ以テ會議諸費ノ不足ヲ補ヘハ別
 ニ賦課スルニ及ハスノ決算ヲ了スヘキニ付十五年十一月
 廿七日ヲ以テ十四年度會議諸費不足補充議案ヲ臨時縣會
 ノ議定ニ附シタルニ縣會ニ於テ其不足ハ不當ノ費用ト認
 メサルヲ以テ決算報告ニ受クルモ十五年度ノ臨時縣會ニ
 於テ之ヲ議スルノ要用ナシトシテ其議案ヲ全廢シタリ抑
 不當ノ費用ト認メスシテ其議案ヲ全廢シタルハ不都合ニ
 有之其儘之ヲ認可スレハ決算ヲ了スル丁能ハサルヲ以テ
 更ニ之ヲ再議ニ附シ且其説明ヲ與ヘタリ然ルニ縣會ハ其

再議ニ際シ通常縣會延期ノ故ヲ以テ會議諸費ノ定款ニ不
 足ヲ生スルルハ其年度内ニ不足追加豫算議案ヲ發シテ縣
 會ノ議定ニ附セサルヘカラサルニ縣令ノ專斷ヲ以テ既ニ
 不足金若干ヲ支出シ其金額ヲ増減スヘカラサル不足補充
 議案ヲ十五年度ノ臨時縣會ニ附シテ議定スヘシト云モ府
 縣會規則第一條地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及其
 徵收方法ヲ議定ストアリ及ヒ其トハ上下ヲ連絡シタル文
 字ナレハ縣會ハ經費ノ豫算ト其豫算ノ徵收方法トヲ議定
 スヘキモノニシテ不足補充ヲ議スルノ權ナキモノナリト
 陳述スレ其十四年度通常縣會ノ開會ハ十五年六月廿六日
 ニシテ其年度内僅カニ四日ヲ剩スノミ且費目ニヨリテハ
 其不足ヲ豫知シテ追加ノ豫算議案ヲ其年度内ニ發スルコ

ト能ハサルモノアリ又豫算定額ニ不足ヲ生スルハ必ス追加ノ豫算議案ヲ其年度内ニ發シテ縣會ノ議定ニ附スヘシトノ規則アルニアラサレハ十四年度内ニ不足追加ノ豫算議案ヲ發セサリシハ縣令ハ敢テ之ヲ怠リタルニアラス不足補充ノ議案ヲ十五年度ノ臨時縣會ニ附シタルハ縣令權内ノ事ナリ又會議諸費不足金若干ヲ支出シタルハ假ニ支拂置キタル迄ノコトニテ更ニ其不足補充議案ヲ臨時縣會ノ議定ニ附シタルハ縣令ハ敢テ專斷ノ處分ヲ爲シタルニアラス又會議諸費ハ旅費日當等ニシテ其給額ハ縣會ノ議定ヲ認可シタル規則アリテ之ヲ定メ其費用ノ増減ハ會期ノ長短ニ從テ自ラ定ルヘキモノナリ而シテ十四年度通常縣會ノ延期ハ即チ縣會ノ決議ニ出タルモノナレハ同年度

會議諸費不足補充ノ如キ其金額増減ノ議スヘキ所ナキハ勿論ナリト雖モ若シ之ヲ不當ノ費用ナリト認ムルニ於テハ其増減ヲ議スルモ可ナリ又府縣會規則第一條中其ノ文字ハ上文ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ給費トアルヲ指シタルモノナレハ豫算ノ徵收方法ニアラサレハ之ヲ議スヘカラスト云フハ法律ノ見解ヲ誤リタルモノナリ今假ニ一步ヲ讓リ縣會陳述ノ如ク豫算ニアラサル經費ノ徵收方法ヲ議スルハ府縣會規則第一條ニ含蓄セサルモノトスルモ其經費タル縣會ノ延期ヨリ生シタルモノナレハ其補充方法ハ早晚縣會ニ於テ議定セサルヲ得サルモノナリ況ンヤ從前如此不足ハ縣會ニ於テ其補充方法ヲ議定セシヤ故ニ十四年度豫備費ノ剩餘ヲ以テ同年度會議諸費ノ不足ヲ補

フヘキ至當便利ノ議案ヲ發シ府縣會規則第一條ニ依リ議定ニ附シタルハ法律ノ見解ノ誤ラサルモノト信認ス

審明

本件縣令ト縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニスルノ要點ハ縣令ハ地方稅規則第四條ニ依テ議定シタル豫算定額ニ超過スル經費ヲ支出シタルノ後不足補充議案ヲ發シ府縣會規則第一條ニ依テ縣會ノ議定ニ附スルヲ得ルヤ否ヤニアリ因テ之ヲ審案スルニ縣會ハ府縣會規則第一條ニ依リ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算ト共徵收方法トヲ兼テ議定スルノ權ヲ有ス而シテ地方稅規則第四條ニ依テ議定シタル經費ノ豫算定額ハ一周年度支出ノ定限ヲ立タル者ナレハ實際ノ支出ニ臨ミ不足ヲ生スル

コトアルモ縣會ノ議定ヲ經ルニアテサレハ其豫算定額ヲ超過スルヲ得ス又既ニ支出シタルノ後不足補充議案ヲ發シテ縣會ノ議定ニ附スルヲ得ス縣令ハ十四年會議諸費ノ不足ハ縣會ノ延期ヨリ生シタル當然ノ費用ナレハ縣會ニ於テ其全額増減ノ議スヘキ所ナキハ勿論又其不足補充ノ議案ハ豫備費ノ剩餘ヲ以テ會議諸費ノ不足ヲ補フヘキ至當便利ノ方法ナルヲ以テ其議案ハ經費ノ豫算ニアラズ既ニ支出シタル經費ノ不足ヲ補フノ議案ナレハ府縣會規則第一條ニ依リ議定ニ附シタリト論スト雖モ本件ノ如キ場合ニ於テ特ニ豫算追加ノ議案ヲ發シ縣會ノ議定ニ附スルハ妨ケナキモ費用ノ當否ト方法ノ便否トヲ問ハス縣會ノ議定ヲ經スシテ經費ノ定額ヲ超過シ既ニ支出シタル

ノ後不足補充ノ議案ヲ發シテ縣會ノ議定ニ附スルハ府縣規則第一條ノ旨趣ニアラス

判決

右ノ理由ニ因リ縣令ハ縣會ノ議定ヲ經スシテ豫算外ノ支出ヲ爲ストナ得ス本件ノ如キ場合ニ於テ特ニ豫算追加ノ議案ヲ發スルハ妨ケナキモ不足補充ノ議案ヲ發スルコトヲ得サルモノトス

明治十六年二月廿二日

審理委員長參事院副議長 田中不二磨

審理委員 參事院議員 水本成美

全 全 尾崎三良

全 參事院議員補 渡 正元

久保田貫一

落合濟三

中山寛六郎

正誤

- 十三丁三行 定。ズ。ハ。得。ス。ノ。誤
- 十七丁五行 嵐。メ。タ。リ。ハ。認。メ。タ。リ。ノ。誤
- 十八丁十一行 包。含。ス。ル。ヲ。ノ。ハ。包。含。ス。ル。モ。ノ。誤
- 十九丁十一行 條。ル。ハ。ハ。條。件。ノ。誤
- 廿七丁十一行 縣。令。ノ。下。ト。ノ。字。ヲ。脱。ス
- 五十九丁九行 議。會。ハ。縣。會。ノ。誤
- 六十丁三行 實。施。ハ。實。費。ノ。誤
- 七十六丁六行 密。接。ハ。密。接。ノ。誤
- 七十七丁八行 之。ヲ。ハ。之。ニ。ノ。誤
- 八十丁初行 大。田。川。ハ。太。田。川。ノ。誤
- 同丁四行 看。手。ハ。著。手。ノ。誤
- 同丁七行 此。兩。川。ハ。是。兩。川。ノ。誤
- 九十五丁三行 十。四。年。ノ。下。度。ノ。字。ヲ。脱。ス

明治十六年二月六日出版御届

編輯出版人

千葉縣平民

安田勳

安房國長狹郡
平塚村

福島縣士族

村上幹當

東京淺草東三
筋町五十番地

賣 東京銀坐四丁目

博聞本社

弘 大坂心齋橋通南
久寶寺町四丁目

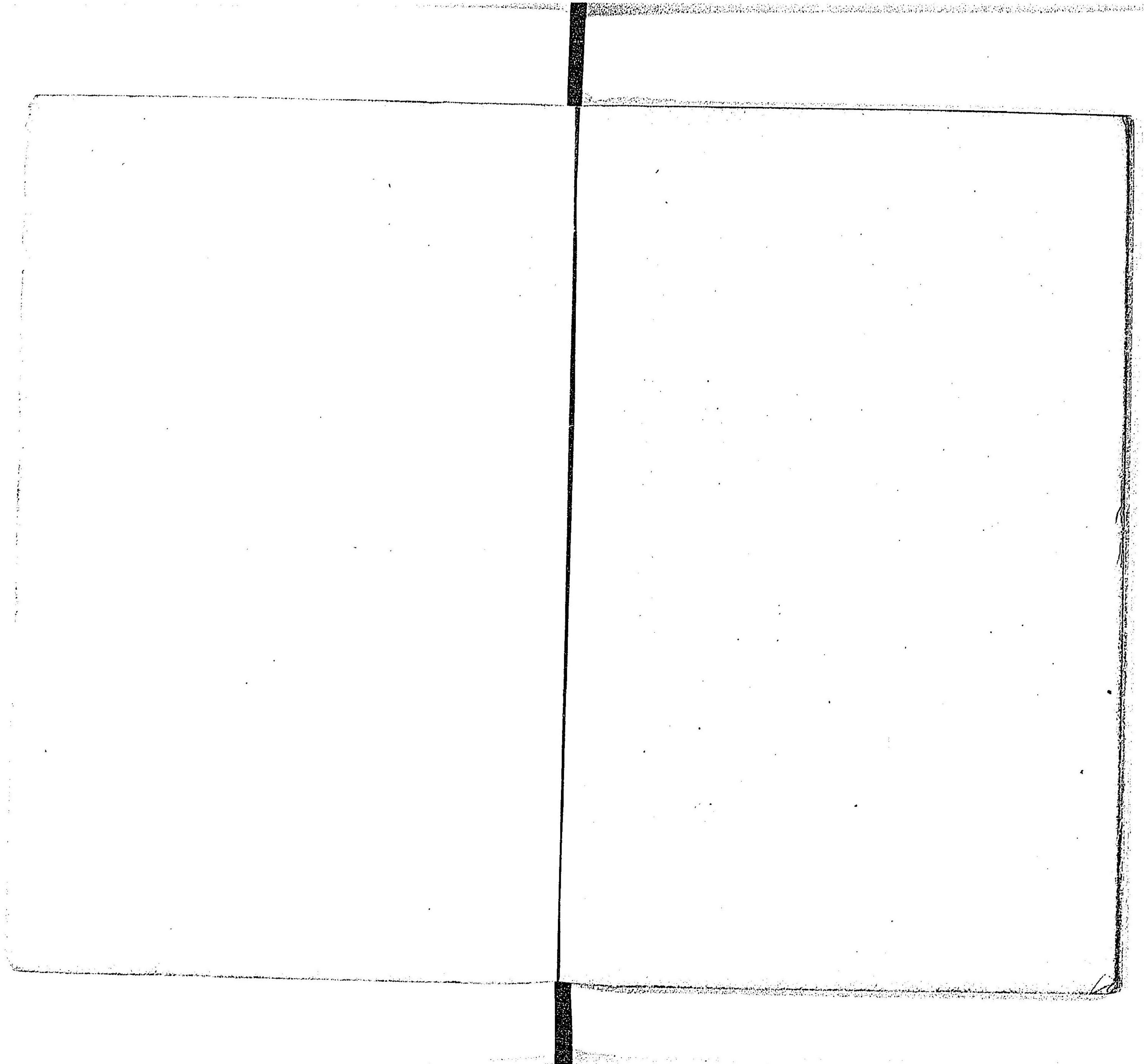
全分社

千葉縣下千葉

全分社

所 埼玉縣下浦和

全分社



定價金二拾五錢

東 京 圖 書 館

新 書 門

五 十

部 類 函 架 號 冊

禁電子式複写

97
865

安田 勲
村上 幹 當
同 編

参事院裁定録
第一卷

明治十六年三月出版

036545-000-6

CZ-2391-04

参事院裁定録 第一卷

安田 勲

村上 幹 當 編

M16

BBR-0311

